

北見赤十字病院 循環器内科選択研修プログラム

(1) プログラムの名称

北見赤十字病院循環器内科選択研修プログラム（2年次 自由選択）

(2) プログラムの目的と特徴

1) 目的

内科1年次6ヶ月の研修をさらに専門的に発展させることを目標とし、当院および厚生労働省の到達目標の全てを達成する。

2) 特徴

- ① すべての循環器系疾患を診療できる体制・指導を整えていること
- ② 当院は、救命救急センターを有するため、循環器系の救急疾患を豊富に経験できること。

(3) プログラム責任者

斉 藤 高 彦 （院長補佐監・第一循環器内科部長）

(4) 研修目標

頻度の多い循環器系疾患を診察するための基本病態を理解し、技術・知識・検査法の適応および、その結果に対しての正しい判断ができるようにする。

1年次6ヶ月の内科研修で到達目標に達していない項目の目標を達成する。

1) 行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努める。

2) 経験目標

①経験しておくべき疾患または病態・手技

I) 疾患の基本病態の把握

- 1. カンファレンス・病棟回診を通じて疾患を理解する。
- 2. 患者を通じて現象を把握し、検査の進め方を学習する。
- 3. 患者を通じて検査結果の意味を理解する。
- 4. 心電図を判読できるようにする。
- 5. 心エコー図検査の所見を理解できるようにする。
- 6. スワングアンツカテーテルからえら得られた血行動態から患者の病態を理解できる。
- 7. 心臓電気生理学的検査の結果を理解できる。
- 8. 心臓核医学検査の結果を理解できる。

II) 疾患の基本的治療法の把握

1. 心不全治療
2. 虚血性心疾患治療
3. 心臓弁膜症治療
4. 不整脈治療
5. 高血圧治療
6. 大動脈・末梢血管疾患治療
7. 心筋・心膜疾患治療
8. 電氣的除細動ができる。
9. 体外式ペースティングができる。
10. 循環器系各種薬剤の特徴を理解し適切な使用法を実践する。

III) 基本的手技の習得

1. 心電図が記録できる。
2. 運動負荷検査ができる。
3. 心エコー図ができる。
4. 心臓カテーテル検査ができる。

IV) 経験が望まれる病態

1. 胸部圧迫感・灼熱感・絞扼感
2. 動機・心悸亢進
3. 呼吸困難
4. 失神・浮動感
5. 浮腫
6. ショック
7. チアノーゼ
8. 全身倦怠感

V) 経験が望まれる疾患

1. 急性・慢性心不全
2. 急性心筋梗塞
3. 狭心症（労作性狭心症・異型狭心症・不安定狭心症）
4. 心筋症（拡張型心筋症・肥大型心筋症・拘束型心筋症）
5. 心筋炎・心膜炎
6. 感染性心内膜炎
7. 心臓弁膜症
8. 先天性心疾患
9. 不整脈

- 10. 動脈・末梢血管疾患
- 11. 高血圧
- 12. 肺高血圧

(5) 研修実施計画

1) 期間

2年次 自由選択期間

2) 研修の実施方法

① 外来研修

指導医の補助医として外来診療に参加し、多種の症例を経験しながら基本的な診察法、診断法を習得する。

② 病棟研修

指導医の下で入院患者の受け持ち医として診療を実践する。

指導医の下で適宜当直業務を行い、緊急・急変時の対応を経験する。

③ カンファレンス等による研修

各種カンファレンス、C P C等に参加し研修内容を充実させる。

回診に参加する。

3) 病棟業務スケジュール

	午前	午後	夕方以降
月	運動負荷検査 心エコー 回診	心臓カテーテル検査	
火	外来診療補助	運動負荷試験 心臓カテーテル検査	
水	運動負荷試験 心エコー 回診	心臓カテーテル検査	
木	外来診療補助	運動負荷試験 心臓カテーテル検査	
金	運動負荷試験 心エコー 回診	心臓カテーテル検査	病棟患者カンファレンス 抄読会 (各週毎)

※心臓カテーテル検査は毎日午後に予定している。

※心臓カテーテル検査の読影は検査終了後毎日施行する。

(6) 指導体制

1) 指導医

齊 藤 高 彦 (院長補佐監・第一循環器内科部長)

小 野 太 祐 (第二循環器内科部長)

徳 原 教 (第三循環器内科部長)

2) 指導体制の概要

指導医 3 名および上級医にて指導にあたる。

指導医は、別記の方法で定期的に研修医の評価を行う。

(7) 研修医の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に順ずる。